

KG JOURNAL

関西学院通信 [関学ジャーナル]

特集

Special

世界市民を育む、学びがある。

留学生と行く！ 関西学院大学 グローバル キャンパス

数字でみる関学

出身国別 留学生の数

突撃！KG CLUB

文化総部 速記研究部

2019.1.16

262号





学長 の ポケット

学長・村田 治

国際交流への主体的参加を

大学での学びは、本来、受動的なものではなく主体的なものではないかと思っています。学生の皆さんが、心から興味を持てることに取り組むことが一番です。それが、学部の専門領域であれ、クラブ活動やボランティアであれ、何でもよいですから徹底的に打ち込むことが大切です。しかしながら、打ち込むべき対象が見つからないこともあるでしょう。むしろ、そういう学生の方が多いのではないのでしょうか。そういう場合には、思い切って海外に出るなどの国際交流を図ってみてはいかがでしょうか。

関西学院大学は2014年に文部科学省のスーパーグローバル大学創成支援 (SGU) 事業に採択されました。その構想名は「国際性豊かな学術交流の母港『グローバル・アカデミック・ポート』の構築」というものです。この構想に基づいて、本学では、英語の習熟度別プログラム、海外派遣プログラムなど多様な国際プログラムを用意しています。また、海外から多くの留学生を受け入れており、各学部においても独自の海外プログラムの開発が進められています。

また、皆さんの中には、クラブ活動や経済的負担のために海外に出て行けない学生もいると思います。関西学院大学では、本学のキャンパス内で国際交流ができる機会を提供していますので、これらの制度をフルに活用してほしいと思います。ぜひ、自分から主体的に行動を起こして国際交流に参加してほしいと思います。

1	学長のポケット 表紙人
2	特集 世界市民を育て、学びがある。 留学生と行く！ 関西学院大学 グローバルキャンパス
9	ひとひと
11	Research & Research 経済学部 國枝 卓真ゼミ 理工学部生命科学科 巖佐 庸研究室
13	突撃! KG CLUB 文化総部 速記研究部
15	My favorite KG モデナ マーガレット カトリーヌさん (米国) GO Global! 関谷 祐史さん(文学部3年生)
16	数字でみる関学 出身国別 留学生の数
17	Moment
19	TALK DEEP ~グローバル社会がもたらす変化を探る~
25	Campus News 関学カプセル KGグルメ 学院通信
31	私に言わせて！ 「高齢者介護のいま」
32	世界の街角から ドイツ 三嶋 晶子さん
33	Libraring 大学図書館のWEBデータベースを 就職活動でも活用しよう！
34	聖書に聞く 法学部宗教主事 大宮 有博

表紙人

石井 優樹さん

経済学部3年生



11月4日に愛知・熱田神宮-三重・伊勢神宮の8区間(106.8^{km})で開かれた「第50回全日本大学駅伝対校選手権記念大会」の1区(9.5^{km})に日本学連選抜のメンバーとして出

場。終盤のスパートで実力校の選手たちを振り切り、27分25秒で区間賞に輝いた。選抜チームからの区間賞は大会初の快挙。「良い順位でゴールしたかったけど、区間賞とまでは思っていなかった。自信になりました」と笑顔で話す。

悔しい思いがあった。6月の関西地区選考会で関西学院大学は4位。選手権への出場権が得られる3位に32秒届かず、チームとしての出場を逃した。「なぜ負けた」という疑問と「関学のメンバーで走りたい」という悔しさがこみ上がった。すぐに気持ちを切り替えるのは難しかったが、「出るからには他のメンバーや学校の思いを背負って走ろう」と準備した。

「戦略を考えるのが好き」と言い、自分のコンディションや他校の選手、風やコースなどからレース展開を複数考えてベストなものを選択する。今大会でも「想定していたレースに持ち込めた」ことが結果につながった。気持ちづくりも大切にしている。「結果が出ているときも出ないときも、気持ちを一定に保つことで冷静に分析ができ次につながられる」と話す。

「今後の大きな目標は東京オリンピック。まずはユニバーシアードの標準記録を突破して本大会に出場したい。そこでオリンピックまでの距離を分析し、さらに練習を積みみたい」と冷静に先を見据えている。

特集

Special

世界市民を育む、学びがある。

留学生と
行く!



関西学院大学 グローバルキャンパス

関西学院大学では多くの留学生を受け入れています。受け入れに伴い、英語による開講科目の充実や、積極的な交流プログラム、イベントの開催、学内施設の整備などを通して、日本人学生と留学生が同じキャンパスで学ぶグローバルキャンパスの実現を目指してきました。留学生2人と日本人学生1人に、その特徴や魅力について紹介してもらいます!



Students' Voices



私たちが紹介します！



森 美月さん(人間福祉学部3年生)

日本人学生と留学生が交流できるイベントなどを企画・実行する学生団体「GS Network」の代表で、京都の魅力を知ってもらうフィールドトリップや、100人以上が参加する交流会「コーヒーアワー」などに取り組んでいます。新しい人に出会ったり、知らない場所に行ったりするのが好きで、留学生と旅行に行くことも。実社会で学ぶ「ハンスオン・ラーニング・プログラム」や「熊本地震現地ボランティア」などさまざまな活動に積極的に参加しています。



もう いてい
孟 婷婷さん(言語コミュニケーション文化研究科M1年生)

中国出身の正規留学生。出身の北京第二外国語大学の先生が関西学院大学で博士号を取得しており、その先生に勤められて昨年4月から日本語専攻で来ています。日本語は、好きな日本のドラマやアニメも参考にして学んでおり、流ちょうに話します。卒業後は社会人として働いた後に、日本語教師になることが目標。「日本語を教えるだけでなく、人生についても理解を深めてから先生になりたい」と話しています。



ブリヤント アルトゥース ヤニスさん(文学部)

ラトビア出身の交換留学生。趣味は日本の建築物を見て回ること、特に城が気に入っています。大阪城や彦根城など10を超える城を訪ねており、一番のお気に入りには伏見桃山城。「全体的な形と、赤や金色の色使いが最高」と話します。専攻はアジア研究、副専攻で日本語を学んでいます。ニックネームは「アーサー」。



START

グローバル
キャンパスへ

イベント編



コーヒーアワー

まずは、関西学院大学で開催されている日本人と留学生が交流できるイベントを紹介します！私が代表を務める学生団体「GS Network」主催のイベントです。



海外から関西学院大学に来ている教授・講師・研究員・留学生と日本人学生らが、一緒に飲み物やお菓子を囲んで自由に交流するイベントです。春学期と秋学期に3回ずつ、西宮上ヶ原キャンパス(2回)と神戸三田キャン

パス(1回)で開催。留学生はもちろん、日本人学生の参加率も高く、クイズやゲームなどを通じてたくさんの交流が生まれています。関学生は誰でも無料で参加できます。



僕も参加しましたが、すぐに友達ができたり、この前もその友達と遊びに行きました。留学生はみんな日本人学生と話したいと思っています。もっと話し掛けて！



留学生WEEK

アメリカ人の友達から日本語スピーチの原稿添削を頼まれたのを覚えています。「銃規制」について一生懸命、日本語で原稿をまとめたのが印象的です。



日本人学生と留学生の交流を深めることを目的に、さまざまなイベントが開催される一週間です。毎年6月の第2週に留学生による日本語スピーチ発表会や自国・大学紹介、書道や折り紙などの日本文化体験、各国の料理を紹介するランチフェアなど、面白いイベントが続々と開かれます。留学生との交流はもちろん、外国の文化や習慣、海外から見た日本の印象を知る素晴らしい機会です。



GS Networkとは?

CIEC学生交流団体「GS Network (Global Student Network)」は国際教育・協力センター(CIEC)が運営する国際交流型ピア・サポート団体です。主に、海外協定校から派遣される交換留学生の日本での生活や大学生活のサポートをしています。また、留学生

と日本人学生との交流促進のため、年間を通してさまざまなイベントをCIECスタッフと共に企画、実行しています。コーヒーワーや留学生WEEKもその取り組みです。授業期間中は、月に1回のイベント開催を目標にしています。皆さんぜひ参加してください。



↑GS Network主催の神戸フィールドトリップ

わ〜るど・にじいろ・まつり

西宮聖和キャンパスで2015年から毎年秋学期に開催されている異文化理解・多文化共生イベントです。イベントを通して子どもたちと学び合い異文化を知り、違いを認め合うことで誰もが夢や誇りを持って共に生きていくことができる

「多文化共生社会」をつくるのが目的です。2018年のイベントでは、民族衣装や楽器作り、さまざまな国の料理の紹介、在日コリアンの方によるリレートークなどが開催されました。



西宮上ヶ原キャンパスのG号館にある留学生と交流を深める憩いの場。留学生との日常的な交流以外にも、留学生WEEKなどの国際交流イベントや各種留学イベントなども開催されます。

留学生による外国語教室 ~Language exchange~

グローバルラウンジで、ほぼ毎日、昼休みの時間に開催されている留学生による母国語教室です。英語や中国語はもちろんのこと、フランス語、イタリア語、スペイン語に、インドネシア語や広東語まで、幅広い言語の教室が留学生によって開催されています。外国語が話せるようになりたい、留学前に現地の言語を学んでおきたい、友達をつくりたいなど、きっかけは何でもOK!ぜひ気軽に参加してください。



次は、国際交流が盛んに行われている施設や場所を紹介いたします!



国際学生レジデンスV

宝塚市にある4人1部屋のユニット形式の寮。ユニットは18あり、定員は72人です。主に海外の協定校から関西学院大学に交換留学で来ている学生が入寮するほか、学位取得を目的とした正規留学生も入寮します。また、夏季・春季休暇期間には、短期のプログラムに参加する学生が入寮することもあります。



レジデンスVでの生活はとても楽しいです。みんなで集まって共有スペースで料理をしたり、それぞれの誕生日を祝ったりします。



RA (レジデント・アシスタント)

レジデンスVには、留学生らと生活を共にしながら、彼らの生活や入退寮手続きのサポート、寮内の交流促進や寮の運営をサポートするRA (レジデント・アシスタント) という役割を担う学生がいます。2018年3月から始まった新しい制度で、関西学院大学にいながら多国籍な環境に身を置くことで、語学力や高い異文化対応力を身に付けることができます。

RA学生の声 渡邊 千栄さん(神学部4年生)

私が住む国際学生レジデンスVには、65人の留学生がいて、5人のRAと一緒に生活しています。RAの主な役割は二つあります。一つは、寮生同士の交流を促進するためのイベントを企画・運営することです。月に1回を目安にイベントを実施しており、過去には地元の小学校の夏祭りに参加したり、日本の食材を使った鍋パーティーをしたりしました。もう一つは、留学生が気軽に相談できるような時間を週に数回設けて、彼らの生活をサポートするとともに、彼らとの交流を深めることです。

寮に住む留学生は世界各国から来ており、寮に帰ると、日本語以外の言語が飛び交っているのも、まるで自分が留学しているような気分になります。留学生たちはご飯もよく作ってくれるので、彼らの母国の料理を食べることも珍しくありません。留学生とのコミュニケーションは、なるべく日本語で取りますが、日本独特の遠回しな表現が通じないこともあり、また、さまざまな場面で価値観の違いにぶつかることもあって、勉強になることが多いです。

ここでの生活はとても楽しく、毎日貴重な経験ができています。今後は、イベントの内容などを工夫して、留学生の生活をさらにサポートしていきたいと思っています。



↑寮に住む韓国と中国からの留学生と四川旅行(一番右が渡邊さん)

留学生の声

関西学院大学英語版ホームページ、関西学院大学公式YouTubeチャンネルでは、留学生たちの生の声を紹介する動画「Students' Voices」を公開しています。関学での生活や学びを彼ら自身の「声」で発信しています。ぜひご覧ください。



留学生に聞く！ ～関西学院大学について～

第一印象は？



Wow! でしたね(笑)。キャンパスが本当にきれいで、やっと関学に来た! という思いでした。友達にキャンパスの写真を送ったら「それ日本? アメリカじゃない?」と言われました。

「日本らしくない!」というのが第一印象です。私も友達にキャンパスの写真を送ったら「日本じゃないみたい!」と言われましたね。関学会館であったウエルカムパーティーのようなイベントに参加した時、あいさつをしてくださった方が英語で話しておられて「グローバルだな」と感じたのを覚えています。



良いと思うところは？



キリスト教主義の教育をする大学でありながら、全ての宗教や考え方を受け入れているところが良いところだと思います。“Mastery for Service”というスクールモットーも気に入っています。多くの学生が自分の大学のスクールモットーを言えることは素晴らしいですね。

入学式がすごく印象的でした。院長が“Mastery for Service”について話しておられて、とても心に響きました。関学には、さまざまな国の言葉や文化を持つ人が集まっていて、まさにグローバル社会の縮図だと思います。学生だけでなく、先生も中国やドイツの方がいますし、さまざまな文化を受け入れている良い環境だと思います。



あとはやっぱりキャンパスですね。僕の出身のラトビア大学には、キャンパスがありません。街の中に学部ごとの建物が点在しているので、授業の組み合わせによっては移動が大変です。だから関学のキャンパスを見た時は、とても興奮しました。

キャンパスを歩いていると、日本語ではない言葉が聞こえてきますし、留学生にも多く会います。私は留学したことはありませんが、海外に行かなくても留学生と関わったり、意見交換したりすることで、「留学」を体験できるキャンパスだと思います。



留学に行こう!

関西学院大学は、世界44カ国・地域、200を超える大学・コンソーシアム・国際機関と連携して、数多くの留学プログラムを用意しています。下記に紹介しているもの以外にも、学生一人ひとりの目的に応じたプログラムを選べます。積極的に活用しましょう!

中長期留学

【交換留学】

期 間 / 1学期間または2学期間(1年)

派遣先 / 35カ国・地域の約150の協定大学

内 容 / 専門地域や興味のある学問に関する知識を海外の大学で深める

短期留学

【外国語研修】

期 間 / 春休みまたは夏休み中の約1カ月間

派遣先 / 12カ国・地域の29大学

内 容 / 英語、中国語、朝鮮語、スペイン語などの言語を集中的に学習する

学部・研究科等提供プログラム

各学部・研究科等でも、独自プログラムを多数実施しています。

※詳細は、国際教育・協力センター(CIEC)へ





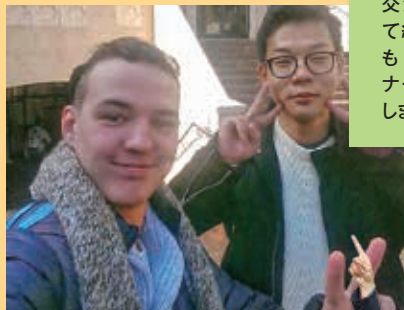
日本語パートナー

プログラム編

僕のお気に入りの制度です。困ったときに電話で助けてくれたりしました。仲良くなったパートナーにもぜひラトビアに来てほしいです。



世界各国の協定校からやって来る交換留学生に対して、関学生がさまざまなサポートをする制度です。留学生1人に対して日本人学生1~2人が付き、週1回の日本語会話の練習や、留学生が日本の生活に早く慣れるように生活面でのサポートを行います。多くの場合、留学生にとって日本語パートナーは初めてできる日本人の友達となり、日本人学生にとっても異文化理解を深める貴重な機会となります。



最後に、日本人と留学生が共に学ぶプログラムや、交流制度について紹介します。私も「日本語パートナー」として活動しました！



現代日本プログラム

自分の専攻に関連する授業を受けながら、日本語の授業も受けることができるので便利なプログラムだと思います。



日本人学生と交換留学生が入り交じって共に学ぶプログラムです。授業は全て英語で開講され、日本の文化、ビジネス、社会、国際関係、言語の五つの領域から、興味・関心に応じて選択が可能。日本人学生と交換留学生が机を並べ、海外の大学と同じ形式で講義に参加できます。これから留学を目指す学生や、留学から帰国した学生に最適のプログラムです。

ますます充実！

教育学部生ならではの留学プログラム

教育学部では、世界の多様な教育の在り方を学ぶ独自の留学プログラムを実施しています。2019年度からは、従来のUS“アシスタント

ティーチャー”ボランティアに加え、新たな国際教育プログラムを設立！ますます留学が身近なものになります。

教育学部の留学プログラム

US“アシスタントティーチャー”ボランティア(約2週間)

留学先/カリフォルニア州の公立小学校・幼稚園

内容/教育支援のボランティアを通じて多様な教育の在り方を理解する

New オーストラリア幼児教育プログラム(約2週間) ※秋学期に募集開始予定

留学先/シドニーの幼稚園、ニューサウスウェールズ大学付属の語学学校

内容/多文化共生社会であるオーストラリアの幼児教育の現場に参加し、個性を尊重する保育や人権教育を体験的に学ぶ



New セブ島ボランティア

~Learn English & Volunteer with Children~

※秋学期に募集開始予定

留学先/セブ島の語学学校、公立小学校ほか

内容/英語学習を行うとともに小学校で実習をするほか、貧困地域の子どもたちへの教育活動に参加

平野 恵梨奈さん(教育学部3年生)の体験記

参加プログラム▶US“アシスタントティーチャー”ボランティア

昨年2月末から2週間、「US“アシスタントティーチャー”ボランティア」という教育学部独自の留学プログラムに参加し、アメリカカリフォルニア州のロサンゼルスにある小学校に行きました。実際に教育現場に入り、担任の先生をサポートしながら、日本と海外における教育現場の違いなどについて学びました。



休みの日に行ったサンタモニカで

私が手伝ったのは7歳児から9歳児のクラス。主に授業に付いていけない児童のサポートや、教材や資料作成の手伝いをしました。アメリカの小学校教育では日本と異なる点が多くあり、驚きました。例えば、日本の授業は45分間、机に向かって勉強するのが一般的ですが、私が行った小学校では、児童に数人のグループを作らせて、一方はグループ学習、もう一方は問題演習など、それぞれに別の課題に取り組ませていました。それを15分ごとのローテーションで回すので、子どもたちも集中して取り組んでいたように感じました。他にも、児童に1台ずつパソコンが用意され、教室の雰囲気やデザインも全く異なっているなど、視野を広げる経験を通して、日本とアメリカの教育の良いところを知ることができました。

この経験を生かし、「児童から信頼される先生になる」という目標に向かって頑張っていきたいと思います。

※学部ごとに独自の留学プログラムがあります。チェックしよう！



理系のためにデザインされた英語教育プログラム

最先端の学術論文を読むためにも、自分の研究成果を世界に発信するためにも英語力は欠かせません。そこで理工学部では、理工系に特化した英語教育プログラムを導入しています。これは専門分野別に少人数で週3回集中して英語を学ぶもので、「読む」「書く」だけで

なく、効果的なプレゼンテーションの方法なども習得します。また、学部・大学院の6年間を通した英語教育とともに、英語で学位を取得できる「国際修士プログラム」も設置しています。これらの取り組みによって、国際学会で成果をあげる学生は年々増えています。

特徴①独自の教材を使用

教材は全て教員が制作した理工学部独自のものです。全学科に同じ質、同じ量の教材を提供しています。また、副教材として5,000冊の英語の多読本を用意。英語を毎週読むことを学生に推奨しています。

特徴②英語集中合宿を実施

3年生の夏季休暇中に5日間の科学技術英語を学ぶ合宿を開催。1人の教員が学生7~8人を指導します。使われる言語は英語のみ。学生はグループごとに調査や研究、発表を行います。参加する学生が毎年増えている人気のプログラムです。



留学生に聞く! ~日本と母国の違い~

日本について不思議に思ったこと、驚いたことはありますか?



居酒屋とかラーメン屋さんで、人が列を作って待っている光景を見た時は不思議でした。ラトビアでは、ほとんどの人が待たずに違うお店へ行きます。無料で使えるトイレがどこにもあることにも驚きました。ラトビアでは、なかなかトイレを見つけられないし、使うのに30円ほどお金がかかりますよ。

トイレの話で言うと、トイレトペーパーがいつも用意されていますし、便座が温かくなることには本当に驚きました!そこまで考えつきますか?もう日本のトイレを買って帰りたいです。自動販売機も多いですね。冷たい飲み物も温かい飲み物も買えるので助かります。たまに中国に帰ると、日本での生活に慣れすぎて、中国での生活の方が大変に思えることがあります(笑)。



ファッションも特徴的ですね。男の子の髪が長かったり、とても大きなサイズの服を着ていたり、ラトビアではなかなか見られないファッションが多いです。

就職活動の時期になると、みんな同じ黒いスーツを着て、黒い靴や靴を身に着けますね。大変だと思います。



ラトビアでも面接でスーツを着ることはありますが、業界によっては面接にスーツを着て行かなくてもいいですし、今日の僕みたいな少しラフな格好でも大丈夫なところもあります。日本のように就職活動が一斉にスタートするわけではなく、自分のタイミングで友人や知り合いを通して就職、転職する場合がありますね。

寮の在り方も違いますね。中国で寮と言えば、キャンパスの中にあるのが普通ですが、私が住んでいる寮は開学からかなり離れていて、両親にその話をした時は驚いていました。でも、今ではすっかり慣れました。



勉強に、スポーツに、趣味に一。
さまざまな分野で一生懸命に頑張るKGピープル。きらきらと輝く横顔を紹介する。



※起業家を応援するインキュベーション施設「GVH Osaka(グローバルベンチャーハピタット大阪)」が主催

起業に必要ない基礎知識などを学んだ参加者が、チームごとでアイデアを発表するイベント。小林さんは、その場で他大学の学生とチームを結成。Webサイトをを通じて、日本で入手困難な未加熱の調味料の計量販売と、調味料を使うレシピを公開するサービスを考えた。花椒(中華花椒)を使って麻婆豆腐が作れる

今後は、ビジネスコンテストが活発なドイツへの留学を計画。「何かを生み出すことは本当に楽しい。将来は、自分のアイデアで新たなものを提供できる仕事になりたい」と力強く話す。

小林 大紀さん

総合政策学部1年生

城元 宏美さん

社会学部4年生

プログラムの簡潔さなどが高評価 データ分析コンテストで学生部門最優秀賞

統計ソフトSASとJMPを用いてデータ分析を競い合う「第6回「Data's」データ分析SAS/JMPによるマイクロデータ分析コンテスト」(主催/SASユーザー会世話人会)の学生部門で最優秀賞を受賞した。

コンテストは、指定された未解析データを自分で組んだプログラムを使って分析する規定課題と、用意された疑似マイクロデータから好きなジャンルについて自由に分析する自由課題がある。自由課題では、入学時から続けている塾講師のアルバイト経験から興味を持った、世帯ごとの子どもに対する教育の現状と教育費支出について分析した。結果をまとめた論文は、全体の完成度に加え、分析用

に作成したプログラムの簡潔さや図の見やすさが高く評価された。

3年生から所属する社会心理学のゼミでは、データ分析のために統計が必須。「数学が本当に苦手だった」が、徐々に理解していったという。3年生の秋ごろに情報科目の先生からコンテストの話を知り、「せっかく今まで勉強してきたから」と思い立った。「やるからには頑張りたい」と思っていたけれど、まさか最優秀賞がもらえるとは」と振り返る。

春からは通信会社で技術者として働く。「仕事を通して統計をより深く学び、教育システムの改善などに貢献できるようにしたい」と笑顔を見せる。



起業体験プログラムに参加し 完成度の高さと目新しきでグランプリ

ビジネスアイデアを具現化する起業体験プログラム「GVH Startup Camp」(※)に参加し、社会人チームを抑えてグランプリを獲得した。「次への自信になった」と喜びを語る。

「GVH Startup Camp」は、約1カ月間、起業に必要な基礎知識などを学んだ参加者が、チームごとでアイデアを発表するイベント。

小林さんは、その場で他大学の学生とチームを結成。Webサイトをを通じて、日本で入手困難な未加熱の調味料の計量販売と、調味料を使うレシピを公開するサービスを考えた。花椒(中華花椒)を使って麻婆豆腐が作れる

など、本場の味にこだわる人々を狙う。

準備では、デモサイト構築やプレゼンシーターのデザインを担当した。プログラミングは初心者だが、いつでも実売できる完成度の高いレベルにまで仕上げた。主宰者である日本有数のエンジェル投資家から「例のない新たなサービスだ」と評価され、一般審査員の支持も得た。

今後は、ビジネスコンテストが活発なドイツへの留学を計画。「何かを生み出すことは本当に楽しい。将来は、自分のアイデアで新たなものを提供できる仕事になりたい」と力強く話す。

西村 由美さん（2006年総合政策学部卒業）

株式会社美キャリア 取締役

常 瑠里子さん（2007年総合政策学部卒業）

株式会社美キャリア ブラインドコミュニケーションファシリテーター

視覚に頼らない会話術を企業研修障がい者に多くの選択肢がある社会を

見 えないことを強みに変え、表情やしぐさに頼らない会話術を教える「ブラインドコミュニケーション研修」を企業向けに二人で開催している。

研修会社代表の西村さんは、先天性の視覚障がいがある4歳の娘の出産をきっかけに、「見えない」という理由だけで世間から先入観を持たれてしまい、選択肢が狭められていることを痛感した」と話す。講師を務める常さんは、2歳の時にかけた麻疹で失明し、中学までは盲学校に通ったが、自ら希望して普通の高校へ進学。大学卒業後には米国のNPO法人で1年間のインターンシップを経験し、その後、国際協力機構関西センター

（JICA関西）で働き、海外青年協力隊員としてタイへの派遣も経験した。「関学での障がい者差別のない大学生活が、その後の将来の可能性を広げた」と振り返る。

本格的に活動を始めてまだ1年足らずだが、障がい者雇用のニーズが高い企業のみならず、多くの企業で研修を行っている。「見えるからこそコミュニケーションエラーが起きていることに気付いてもらえれば」と常さんは話す。

研修を通じて、「障がいの有無ではなく純粋にその人の能力が評価され、多くの選択肢がある社会が実現されるように」と願っている。

西村さん(右)と常さん



「慣用句らしき」の数値化を研究 言語資源活用ワークショップで優秀発表賞

三言 語資源活用の先進的な事例や知識の共有、研究交流を目的に昨年9月に開かれた「言語資源活用ワークショップ2018」（国立国語研究所主催）で、研究してきた内容をまとめ発表した「日本語 wikipedia を用いた慣用句の構成

性の数値化」が優秀発表賞に選ばれた。大学院では言語学について研究、慣用句の「慣用句らしき」を数値で表す手法を考えて立証した。例えば、「頭にくる」という慣用句は「頭／＼くる」と三つの言葉に分けられるが、それぞれの言葉の意味を足算して全体の意味を理解しようとしても「怒りを感じる」

という意味にたどり着くことは難しい。岡田さんは単語の意味をベクトルで表現する手法を用いて、それぞれの単語が持つベクトルの合計と慣用句全体が持つベクトルの類似度を計算することにより「慣用句らしき」を数値化できると考えた。

「慣用句の概念という、言語学の中では昔から議論されてきたテーマに一つの光を与えられたと思っている」と喜びを語る。

卒業後はシステムエンジニアとして働く。「チャンスがあれば、大学に戻って研究をしたいと思う。将来は、言語学と他分野の橋渡しのような役割を担いたい」と力を込める。

岡田 優也さん

言語コミュニケーション文化研究科M2年生

金融市場の発達が経済成長に及ぼす影響を理論と実証の両面から分析



國枝 卓真 准教授

金 融市場の発達が、経済成長や景気循環、国内の不平等にどのように影響を及ぼすのかについて、理論と実証の両面から分析しています。国によってお金を借りやすい国、借りにくい国があります。前者では生産性の高い人たちに資金が集まり、事業への積極的な投資がされることで高い経済成長につながります。しかし、後者では、生産性の高い人たちに資金が集まらず、限られた少額の資金でしか事業が進められないため、高い経済成長を達成することができません。

発が進んで「金融市場の不完全性」いわゆる「信用制約」をマクロ経済モデルに組み込めるようになりました。私はこの15年ほど、そうした理論モデルの構築に注力してきました。

最近の研究では、条件が異なれば金融市場の発達は経済成長を阻害するかもしれないという実証結果も出てきています。この矛盾を解決するために、統一的な理論モデルが必要で、現在はその開発に取り組んでいます。この問題を扱った論文も幾つか出しましたが、まだ納得できる形ではなく、さらに研究を深めたいと考えています。

（日本におけるフィッシャー効果について検証）



藤原 将記さん 経済学部4年生

「現在の日本におけるフィッシャー効果と流動性の罠の検証」をテーマに研究しています。これまで、物価上昇率の上昇・下降に応じて名目利子率も同じように上昇・下降すると考える「フィッシャー効果」や、利子率が一定以下に低下した場合、貨幣需要が無限大になり金融政策が無効になる「流動性の罠」といった理論、その理論と現在の日本金融政策の矛盾点について学んできました。それを、自分で改めて研究して確かめたいと思いいこのテーマを選びました。

さまざまなデータを用いた分析の結果、現在の日本では「フィッシャー効果を観察することはできず、流動性の罠にはまっている」という、学んできた通りの検証結果が得られました。今回は日本に限ったの研究でしたが、経済は世界中の出来事から影響を受けることを再認識できました。今後も経済の動きを読み解いていくことを忘れないようにしたいと思います。

数学やコンピュータを使って 生物学のさまざまな現象について研究



巖佐 庸 教授

学生には、興味を幅広く持つように努力してほしいと思います。授業で教えられる知識を身に付けるだけでなく、自ら疑問を持って調べ、新しいことも積極的に学ぶことが必要です。

生 物学のさまざまな現象物にも見られますが、どのような状況でこれが進化するかは生物学の研究テーマでした。ところがいまでは、コンピュータサイエンス、数学、理論物理でも盛んに研究されるようになりました。他方で、多くの経済学者や心理学者が、人間の脳活動を測定しています。つまり人間の「利他性」の基盤を知るために、経済学、心理学、脳科学、進化生物学、さらに数学やコンピュータサイエンスまで、幅広い分野の研究者が取り組んでおり、分野の境目ははっきりしなくなっています。

研究だけではありません。エンジニアが経営や消費者ニーズやデザインを理解し、文系の職種の人がA-Iや統計学を駆使することが必要になっています。これからは文系と理系の壁を取り払わないと社会でも活躍できないのです。

腸内フローラの数理モデルを研究



菱田 真太郎さん

理工学部生命科学科4年生

私は異なる生物の相互作用に興味があり、生物を数学的に調べる研究なら、どのようなテーマでも取り組めるので、巖佐研究室を選びました。関心のあることを研究でき、毎日がとても面白いです。

現在は、腸内フローラの数理モデルを研究しています。腸内細菌のバランスはヒトの健康に大きな影響を及ぼします。細菌同士の競争に、食べ物の種類や免疫系の影響も考えた新しいモデルをつくり、異なる種類の細菌のバランスを調べています。

巖佐研究室では他にも、花粉症の治療、アリの群知能、魚の群れ形成、牛の感染症への農家の対応、光合成細菌が起した大気組成の大気変など、多様なテーマの研究が行われています。

大学院に進学して生物の数理研究の経験を積んで、幅広い知識と多角的な思考を鍛え、さまざまな課題を解決する力をつけて社会に貢献したいと思っています。

このコーナーでは、KGB 総部放送局が記事と映像で、部活動に励む関学生のイキイキとした姿をお届けします！

突撃！ KG CLUB *by KGB*

（文化総部 速記研究部）

“速記研究部です”→



速記研究部は創部50年を超えるクラブです。速記とは、話された言葉をありのままにすぐさま書き取るための方法です。現在、関西学生速記競技大会、関西学生新人速記競技大会、全日本大学速記競技大会に出場しており、競技は1分間に書き取

れる文字によりA級（280字）からF級（140字）までの階級に分かれ、朗読される文章を速記文字で書き留め、普通の文字になおしていくというものです。大会で好成績を収めるべく、速記者としての能力を向上させるために日々練習しています。

年間スケジュール

1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月

強化練習

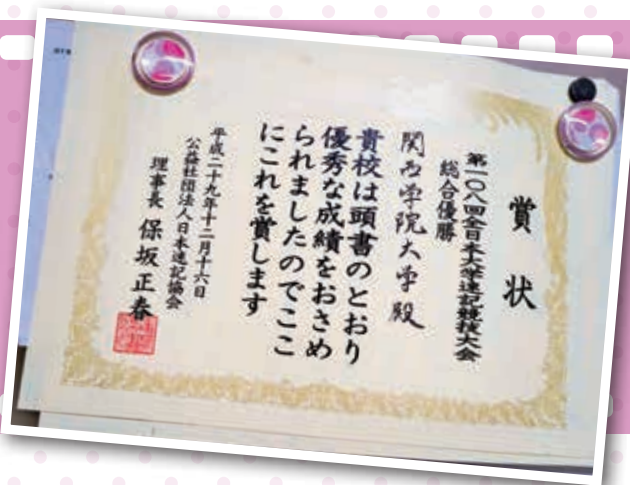
新入生
歓迎会

関関戦

夏合宿

関西学生
新人大会

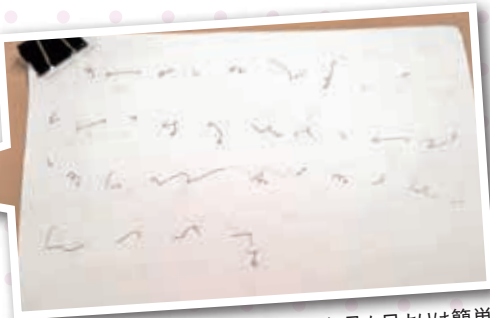
全日本
大学大会



（全日本大学速記競技大会では3連覇中！
4連覇に向けて日々練習に取り組んでいます。）



↑速記には中根式や早稲田式など、さまざまな方式があります。



↑暗号のように見えて難しそうですが、見た目よりは簡単に習得できます。

インタビュー

▶部長 野口 陽子さん(商学部3年生)

Q.部員数は。

30人ぐらいで女子の方が多いです。

Q.活動時間は。

5限目の時間です。

Q.活動内容は。

人それぞれ書き取れる文章の速さが違うので、1、2年生が練習をし、4年生がマンツーマンで指導します。

Q.勢い余ってテストで速記の文字を書いてしまったりしますか。

それはいいですね(笑)。

Q.部活のアピールポイントは。

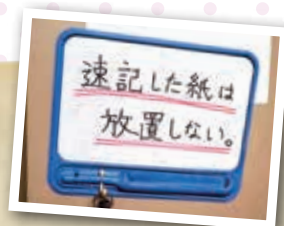
練習の時と遊ぶ時のメリハリがついていて、とても仲がいいです。

Q.経験者の方はいますか。

私が知る限りはいません。大学から始めた人ばかりです。

Q.実は私も入りたかったんです!

そうなんですね(微笑)。



速記を習得していると、講義ノートが早く記録できる、集中力や注意力が高まるなどのメリットがあります!

未経験者大歓迎

仲が良い

服装自由

部室あり

研修あり

ネイル・ピアスOK

授業で使える

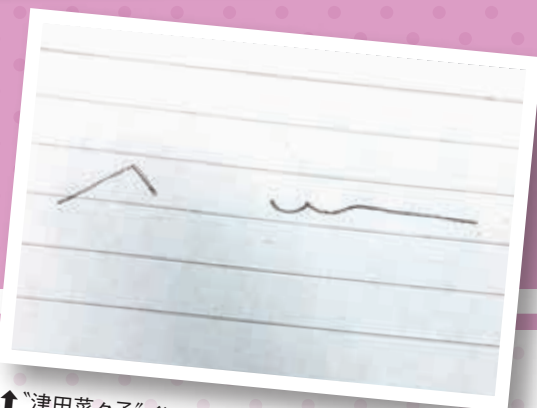
髪型・髪色自由



KGB総部放送局

関西学院大学で唯一の放送団体。アナウンス、ドラマ、技術、制作、報道の5パートに分かれ、昼休みの放送、番組制作、イベント音響などさまざまな活動を行っています!興味のある人はTwitter、ホームページなどをご覧ください!

HP→<http://www.everyday-kgb.com>
Facebook→<https://m.facebook.com/KGBbroadcast>
Twitter→<https://twitter.com/KGBbroadcast>



↑“津田菜々子”インタビューを担当した私の名前も書いてもらいました!



他国の人と関わり視野が広がった

— 関西学院大学を選んだ理由は。

日本に留学したいけれども日本語を専攻するつもりはなかったのですが、関学の現代日本プログラムに「日本語専攻」と「現代日本専攻」の二つの選択肢があることが魅力的でした。難しい言語を学ばなければいけないというストレスを感じることなく留学できるからです。と言いつつも、結局は日本語を専攻しました(笑)。もう一つは場所です。東京は都会すぎるので住みたくなかったのですが、街の近くには住みたいと思っていました。そういう意味では、大阪でも神戸でもなく、二つの街の近くにある関学はパーフェクトです。関西の人はとても優しくフレンドリーで、関西が大好きです。

— 住まいはどちらですか。

今は国際学生レジデンスIVという、西宮上ヶ原キャンパスの横にある留学生寮に住んでいます。多くの授業が行われるG号館まで歩いて5、6分。キャンパスで勉強したり友達に会ったりした後そのまま帰宅でき、とても便利です。学生寮に住んでいる人はそんなに多くないので、全員と仲良くなれ

ました。

— どんな授業を取っていますか。

もちろん日本語の授業が毎日あります。テーマは毎回変わり、文法に加えて、読み書きやリスニングも行います。授業では「話す」ことが中心なので、ライティングの授業でもプレゼンテーションがあります。Japanese Psychology (日本心理学)、Canadian Studies (カナダ研究) という授業も受けています。特にCanadian Studies は面白いです。メンバー14人ほどなのに、出身はバラバラで7カ国になります。開放的な議論にぴったりの環境で、とても盛り上がりやすいです。

— 留学希望者へのアドバイスを。

自分が何を学びたいかをはっきりさせて申請することです。関学が提供する参考資料を事前にきちんと読んで、その情報に基づいていろいろな選択をするのがいいと思います。

— 関西学院大学でどのような学びがありましたか。

たくさんのことに対して、さまざまな視点に触れることができました。他国の人と関わることで、一つのことに対して異なる国の視点から考えることができるようになり、視野が広がりました。これは職



↑住んでいる寮の自室で

場でも私生活でも、あらゆる場面で役に立つと思います。

— 一番好きな日本語は。

「うるさい」ですね。女性が食べ物を食べようとしてかんだ時に、髪の毛が食べ物にかかりそうになって「うるさい！」と言ったのを聞いてかわいいなと思いました。「ちょっと髪の毛うるさい！これはあなたのご飯じゃないよ！」みたいな感じでした。それから私のお気に入りの言葉です。



Go Global!

積極的に仕事を見つけ 動く中で育まれた信頼関係



国際社会貢献活動 関谷 祐史さん(文学部3年生) 派遣国 ▶ ベトナム

昨年4月から約5カ月間、国際ボランティアプログラムの一つである国際社会貢献活動に参加し、「ベトナム日本人材開発インスティテュート」(VJCC)で活動しました。この活動に参加した先輩方の話を聞く機会が多くあり、以前から「自分も参加したい」という思いを持っていました。

想定していた通り、現地に着いてしばらくは新人の私には仕事の依頼をされることはほとんどなかったのですが、積極的に動いて仕事を見つけるようになりました。VJCCが開くイベントに行っ

た広報用の記事を書いたり、現地の学生に通訳をお願いしてインタビューしたりしました。そうするうちに、周りとの信頼関係が自然と生まれ、徐々に仕事を任せてもらえるようになりました。

↓七夕共同掲載企画の様子(左が関谷さん)



↑上司と同僚と

生や日本センターの利用者に、それぞれの願いを短冊に書いてもらい、七夕の様子を再現しました。最終的には172枚の短冊が集まり、他国の同年代の人がどのような夢や思いを持っているのかを知ることができました。

今回の経験を通して、日本がどれほど恵まれた環境にあるのかを痛感しました。日本に生まれ、生活している意味をしっかりと考え、身の回りの環境をうまく活用することで、今後、日本や世界に貢献できる人材になりたいと強く感じました。

数字でみる 関西

関西学院大学は、毎年多くの留学生を受け入れており、その数は年々増えています。関学で学ぶ留学生の数を出身国別に紹介します。

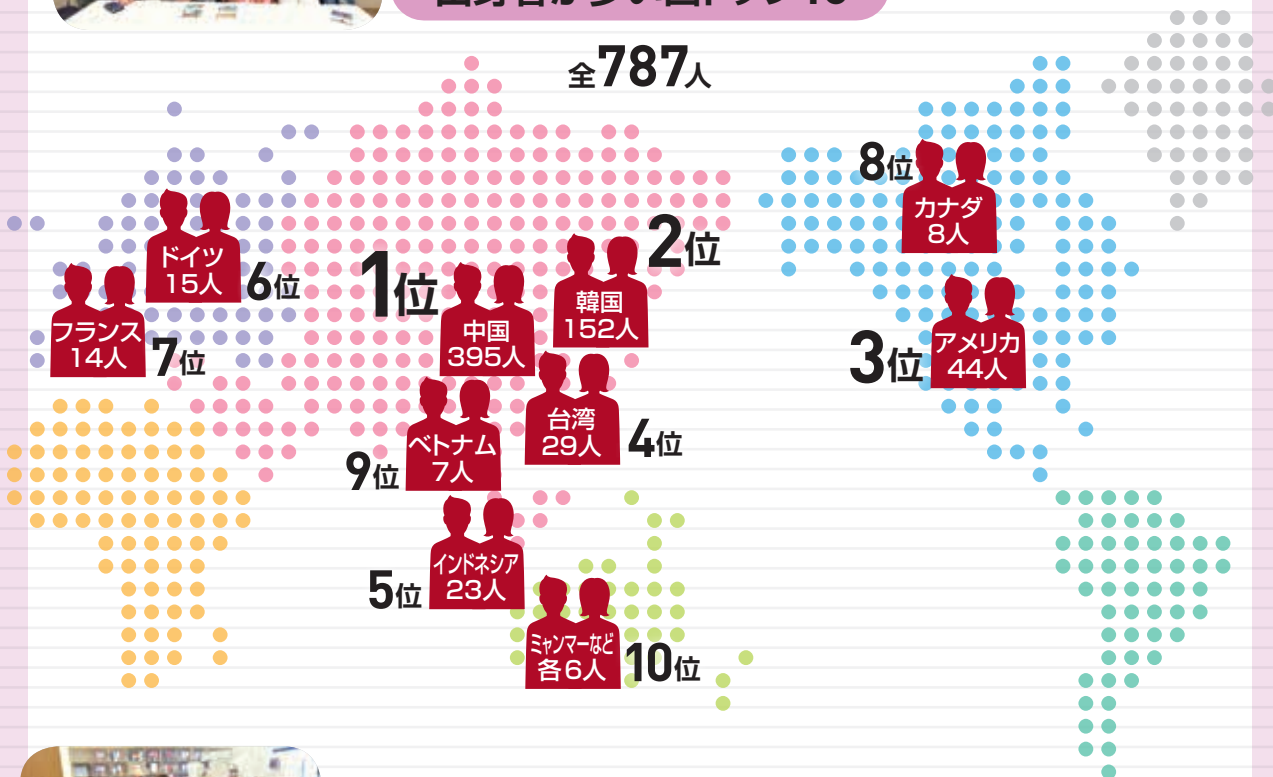
出身国別 留学生の数

※数字は2018年5月時点のものです。
※留学生の数は、学部、大学院、交換・短期留学生を含みます。



出身者が多い国トップ10

全**787**人



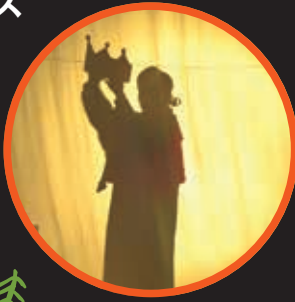
中国と韓国を合わせると547人で、留学生全体の約70%を占めるという結果になりました。逆に、出身留学生が1人だけという国は、インド、モンゴル、トルコ、ニュージーランド、パラオ、ラトビアなどの21カ国でした。



日本全体でも留学生の数は年々増えてきています。関西学院大学は2023年を目標に受け入れ人数を1,500人に増やす計画で、世界各国からやって来た留学生と日本人学生が、キャンパスにしながら国際交流ができる環境の整備を今後さらに進めていきます。



関西学院のクリスマス



異なるものに 心を開こう!

毎号テーマを変え、関西学院大学での学びや取り組み、研究成果などを座談会形式で紹介し、今回のテーマは「グローバル社会がもたらす変化を探る」。ヒト、モノ、カネ、情報、技術が国境を越えて自由に行き来するグローバル化のメリット、デメリットや、それに伴う社会の変化について読み解きました。

グローバル社会がもたらす変化を探る

TALK DEEP

化の時代がありました。国境を越えたヒトやモノ、情報の移動はあるものの、国という枠組みが基本とされていた時代です。ところが

1990年代になると、経営戦略の在り方や、環境や人権の問題など国単位では解決できない動きが加速して表出するようになり、国際化の議論を残しつつも、グローバル化というものを経験しながら理解していく、枠組みをつくっていく段階に入っていたという認識です。

長友 グローバル化という言葉が90年代に一気に広まり、逆に国際化という言葉がだんだんと廃れていった印象がありますね。

日浦 グローバル化とは、ヒトやカネ、モノ、情報、技術が国境を越えて行き交うことで、国際社会において互いを無視できなくなった状況だと思えます。90年代の入管法改正の頃から海外の人がたくさん入ってきて、教育現場にも文化的な背景が異なる子どもたちが増えた。それまでもいたけれども、文化的な多様性がより顕在化してきました。国際化から多文化共生という言葉に変わ

りながら、就学前の教育・保育現場でも意識されるようになっていったと言えます。

長友 昨年出版した著書の冒頭で、グローバル化とはいかなる時代かについて具体例を交えて示しました。『リビングルームでソファアに座る。そのソファはスウェーデンの会社が販売しているものだが、メイドインチャイナである。テレビは日本製でも、製造する人は日本人ではないかもしれないし、見ているのは韓国ドラマ。』一つの空間に国境をまたいでいろいろな地域のもが埋め込まれている、まさしくこれがグローバル化の本質じゃないかと思えます。では、グローバル化のメリット、デメリットをどう捉えていますか。

選択性が増し グローバル化の 意味が複雑に

大岡 世界中のものを消費したり、世界中の人とリアルタイムで文化や経験を共有したりすることが技術的に可能になったというのはグローバル化のメリットです。一方で、私たちが海外に留学した

時代はすこく不便で、現地でも苦勞する経験を重ねながら多様性にどう向き合うのかを学びました。でも今は、物理的に移動してもメールやSNSでそれまでのつながりを続けられるし、国内にいても海外への窓口を開くことができます。選択の可能性が高まったことで、グローバル化の意味がすこく複雑になってきたなと感じています。

日浦 一昨年に2カ月間、調査研究のためスウェーデンに行きましたが、日本にいるのとまったく一緒です。LINEで、学生とも職場とも無料でつながります。便利にはなりませんが、いろんな選択肢の中から自ら判断して選

国単位では 解決できない 動きの出現

長友 現在のグローバル社会とはいかなる時代なのか。社会学にはグローバル化論という領域があります。大岡先生いかがでしょうか。

大岡 グローバル化の前に、国際



ばないといけないのは個人としてある意味重苦しいことですね。

長友 社会学や人類学にトランズナショナルリズムという言葉があります。国境を越えた関係性の構築と維持。グローバル化とはまさしく、越境する何かの継続ということが大きいでしょうね。それと同時に、個人の選択性の増加も大きいのかもしれません。大岡先生、カナダでのご経験をもう少しお聞かせください。

大岡 コミュニティに入っていると、私個人に加えて、アジア人、日本人という別の要因が付随されることで、自分がまったく意識していなかった見られ方をします。これを日常的に経験することで、自分を相対化して考える感覚が皮膚感覚として身に付いていくところはあります。マイノリティの立場に置かれ、その経験を多様性を理解していくという感覚は、日本でマジョリティの「一員としてずっと暮らしている」と磨きつらいものです。日本においてもインターネットで誰ともつながれる、身体的な移動を伴わなくてもグローバルな経験はできるという世界にはなっていない、物理的な移動がもたらす大きな違いではないでしょうか。

日浦 留学から帰ってきた学生も、自分を相対化できた、違った目で捉えることができたということを一歩に言います。それは教育学部で言えば、教育というものもを複眼的に捉える、日本の教育ではない視点で人の育ちを捉えられることです。若い人にはぜひそういう経験をしてほしいと思います。実際にスウェーデンの幼児教育の現場では50以上の言葉が飛び交い、共通言語を奨励する傍ら、自分の言葉で表現することを尊重しています。その場にいることで、学生たちは自分もその中の一人だと分かるのです。

暗黙の了解から新しい価値やルールへ

長友 人の移動は、グローバル化によりいろいろなものが移動する中でも、最も可視的なものだと思います。いざ自分が文化的他者になってみると、その社会の良いところ悪いところが見えてきます。同時にグローバル化のメリット、デメリットも体験として感じるかもしれません。

大岡 日本でも他の国でも、異なる価値観を持った人が入ってくると、伝統が破壊される、暗黙

の了解として成り立っていた規範が侵されるといった危機感もある議論が起こります。でも暗黙の了解はルールとして明文化した方が、もともとする人も暮らしやすくなります。例えば、宗教的な価値観から食べられないものがある外国人へのアプローチとして、食べ物の成分表示をピクトグラム（絵文字）にすると、アレルギーのある日本人もいちいち言葉で説明する必要がなくなりそうです。グローバル化は一時的に不便を感じても、最終的には新しい価値やルールが作られてより良くなる可能性を秘めているのはメリットだと考えています。

日浦 福祉国家と言われるスウェーデンは、貧しいところからみんなまで苦労して社会制度をつくり上げてきた国です。そこに、たくさん移民を受け入れました。そのことは人道主義的に誇れることだと語りつつ、パートナーの若い男性販売員までが私に「人道主義は間違っていた。自分たちがつくった社会がこんなに壊れていくとは思わなかった」と話します。現地では、特に60代以上の人たちも右傾化していることも実感しました。苦労してつくり上げた社会だからこそ、違った



ものが入ってきて共有しようとしてもうまくいかないことに不満を感じる。日本も近い将来、似たようなことが起きるのではないかと危惧しています。逆に、多様な価値がぶつかり合う中で、自ら調整していくことを経験するのはメリットです。*エスニシティだけでなくジェンダーや年齢、宗教、ハニディキャップの有無など互いの違いに敏感になりながら、共生していく方を自分なりに探ることができるようになります。

参画と対話で問題解決する力を子どもたちに

長友 グローバル化は均質化と異質化が同時進行していると言われ、そこにはいろいろな相互作用があります。その中で何が自

*1…エスニシティ
民族性、民族的帰属。

分たちの社会に取り込まれ、何がはじかれるのか、われわれの分野では包摂と排除と言いますが、そのせめぎ合いが研究者としては面白い。けれども社会としては解決すべき問題です。カナダやオーストラリアは相互作用をうまくまとめるロジックがある、多文化主義の理念があるというのが強みだと思いますね。

日浦 ロジックとは簡単に言えばどういうことですか。

長友 社会統合、統合原理でしようか。

大岡 多様性を尊重するという場合、差異をどこまでも認めて共通する部分は何もないように誤解されがちですが、そうではありません。長友先生がおっしゃったように統合を目指す、そのために共通のルールを作ろうとします。その際に、これまでの伝統や規範を一方的に押し付けるのではなく、対話の場に就き、失敗や試行錯誤もしながら作り上げていくことに合意しているところ、時間はかかっても参加の道、対話の道を開くプロセスを持つところが、カナダやオーストラリアの試みです。日本は対話にあまり時間をかけませんし、そもそも対話の場に就けない、声を上げられ

ない人にどう対話の道を付けていくのかというところが足りていないと感じます。

日浦 そこは教育の果たす重要な役割です。わが国の幼稚園教育要領や保育所保育指針、学習指導要領には思いやりという言葉が出てきます。特に就学前教育・保育の現場では、トラブルをすぐに解決すること、「仲良くすること」が相手に対する思いやりと捉えられる傾向にあります。これは思いやりの強制とも言えます。国際社会で言う寛容とは、ぶつかり合い、参画し対話を通して問題を解決していくことです。AさんとBさんがぶつかった場合の対処法として、Aさんに譲るかBさんに譲るかをまず考えるのではなく、A寄りのA、B寄りのB、あるいはCという問題解決を参画と対話によって図る力が子どもたちには必要です。教員自身がこういうことを体験的に知らないことは課題であると思います。

メディア報道と現実とのギャップを危惧

大岡 単発的な事件などでの印象ですが、オーストラリアは近年、

移民との緊張状態が出てきている部分があるように感じます。実際はどうですか。

長友 そういったメディアの報道と実際のギャップを非常に感じます。私の皮膚感としては、とても平等性が浸透しているという実感を持っています。日本でもそうですが、われわれの感情や皮膚感を反映しないメディアの報道は問題ですね。

日浦 情報技術が発展しているが故に、情報が偏っていく恐ろしさは増していますね。

大岡 世界中で起きていることをオンタイムで知れるようになりましたが、選択肢が無限に広がったが故に、さらに誰とどうつながるかという接続性の問題も関わって、自分が知りたい情報だけに狭めてアクセスすることが可能になりました。例えば、現地の友人などのフェイスブック等から直に得られる情報だけに絞った場合、主要メディアの情報を日常的な皮膚感覚で相対化できる半面、バランス感覚やメディアリテラシーが身に付いていなければ視野は広がりません。広くなっているはずの世界で価値観がすごく狭くなっていくという事態が起きていることに怖さを感じます。

国籍や年齢を超えて社会参加の度合いが課題

長友 増加する文化的、民族的な多様性をどう扱うか、多様化するメディアをどう扱うか、扱い方が今後の課題ですね。では、グローバル社会が日常にもたらした変化について、それぞれの研究の



教育学部 日浦 直美 教授・副学長

(研究分野／幼児教育・保育学、人間関係、持続可能な開発のための教育)

分野から聞かせてください。
大岡 近年、日本の地域における人間関係の変化やコミュニティづくりに関心を持っています。例えば、日本人だけでは自治会が成立しなくなり、かつ外国人が増えている地域では、外国人を問題として捉えるのではなく、地域の課題を一緒に解決するための担い手になってもらう方向へと議論が変わってきています。多

様な住民構成ができてきたときに、地域の問題を解決するよう自治会や住民関係がどのような形で生み出されていくのか。グローバル化が現実の地域コミュニティや社会でどういう変化や新しい力を生み出していくのかを見ていきたいと考えています。

日浦 グローバル化に伴って学校教育の中身が変わり、求められる学習態度が、人と一緒に何かを学び合う力、あるいは生涯ずっと学び続ける力といったものに変わってきています。また、競争社会になって学びの中の格差、背景としての格差が広がっており、これをどう埋めていくかが大きな課題です。共生に伴う葛藤とか、時間がかかることへの辛抱強さといった態度も育成していかなければなりません。さらに言うと、市民性があまり共有されていないことも問題です。幼い子どもであっても生活の中で自分たちが困っていること、おかしいと思うことは自分たちの力で変えていく、そういう教育が求められますが、それが足りていません。幼い子どもは何かをしてもらうだけ、かわいがってもらっただけの存在であって、自分も人のために何かできることがあるという教育がなされてい

ません。そういうところから変えていかないと市民性は育たないと思います。

長友 地域の担い手である感覚と社会に属している感覚、市民性の視点からお二人の話は非常に似ています。社会への参加の度合いは、グローバル化社会の課題の一つかもしれないですね。

多様性を学んだ世代が育てば社会は変わる

大岡 今、カナダで多文化主義を支持しているのは、政策導入後に生まれた20代、30代の若い層です。外国人に仕事を奪われるといった議論から、若い人は積極的な移民政策を支持していないというイメージを抱かれがちですが、彼らは日常生活のあらゆる場面にいろいろな背景を持つ移民や難民、セクシュアルマイノリティなどがいて、さまざまなレベルの多様性に接しながら、それでもコミュニティが維持できることを理解して育っています。ですので、多文化主義が社会を分断するよ

づく根拠を持っているのです。

日浦 それは教育へのエールであり、教育の可能性を感じるお話ですね。自分とは異なる人と触れ合うことは、問題も課題も生み出すけれど、それを通して学びがあり、どうすればいいかという問題解決につながっていきます。

そのことを教育の現場で経験している世代が育つことで社会は変わっていくというメッセージだなど、とても励みになります。

長友 オーストラリアでも、教育の現場で日常的に多様性にもまねながら育つことで、リベラな意識が感覚として身に付いていきます。加えて、英語を第一言語としない子どもたちのために電子黒板を活用して伝えたい言葉を瞬時に翻訳して示したり、彼らのための英語のクラスを設けたりと、サポートするシステムがあります。今後の日本の教育現場を考えたとき、多様性をどう扱うかというシステムの部分をどう考えますか。

日浦 難しい問題ですね。まず教員養成の問題があると思います。教えられて学ぶのではなく、自分が体験し、そこに問題性を感しない限り変わっていきませんから、教員養成教育というものが

が変わる必要があります。どう変えていけばいいのかという答えは、まだ見つけられていない状況です。

大岡 システムも大切ですが、外国人に対する意識を変えていくことも大事かなと思います。以前「外国人が自分の地域に増えることに対する意識が、その人を取り巻く人間関係とどう関わっているのか」を調査したとこ



国際学部 長友 淳 教授
(研究分野 / 移民研究、オーストラリア社会、日本社会)

ろ、外国人の友人がいる人の方が、否定的な意見や態度との関係性が低くなる傾向がありました。さらに言うと、異性の友達がいる自分と異なる職種の人や友人がいるなど、友人の幅が広い人の方が多様な価値観にさらされて態度が変わっていくという関係性が見られました。人間関係に多様性を持つことが意識の部分でも大切



日浦 しかも、今の学生は、その場に行ったかのようなバーチャルな体験をたくさんしています。一度も見たことがない場所と、バーチャルであつても見たことがある場所とは、行った時の感覚が全然違って、楽しさやワクワク感が欠落していく。グローバル化にはそんな一面もあるかと思えます。

長友 しかしその一方で、受け入れるホスト側はひかにおーセンティックな日本文化を提供するかというところで、ある種の演出をする事態が起きるかもしれません。自分の文化を一種の操作可能なものにして提示する、文化人類学の分野では文化の客体化という言葉を使います。文化をめぐるゲストとの相互作用、これが自らのアイデンティティーにいかに変化をもたらすかですね。
日浦 プラス面を考えると興味深いですね。

新しい情報や 出会いへの オープンな心を

長友 太田好信という文化人類学者の沖繩の観光に関する研究に、興味深いものがあります。沖繩の社会では、漁民は階層とし

ても意識としても自信を持つていなかっただけですが、彼らの暮らしを観光客に語り、自分たちの当たり前が観光資源になることで、アイデンティティーがポジティブなものとして強化されたというのです。文化の客体化によりアイデンティティーが変化する。そういったミクロな転換が、グローバル化社会の他者との相互作用では起きるのかもしれない。では、今後の展望については、どのように考えますか。

大岡 グローバル化には一方向ではない側面があります。グローバル化が進むと、同時にナショナルな部分を強めていくという反作用を常に起こします。カナダでも若い世代にリベラルな意識が根付く一方で、昔からの歴史教育を復活させようといった動きが出ています。グローバルな部分とナショナルな部分のバランスをどう実現させるのか、一人の人間の中でも、社会のシステムとしても難しい課題として立ち現れてくると感じています。
日浦 私は教育が一つのキーワードだと思います。幼い子どもたちの心に、多文化社会は当たり前であり、自分もその社会の構成員の一人なのだという意識を育てて

いくことが課題としてあります。そのことを今の大人が意識していないといけないし、教育学部の教育もそこにポイントを置かなければならないと思います。自らに翻つて考えるならば、いろいろな異質なものと出会い、相互作用の中で自分をどんどん変えていきながら社会の一員としてどう生きていくかということですね。年齢や世代の違いの中で共生ということも、これからの自身の課題だと思っています。

大岡 グローバル化は世界レベルの問題に限らず、職種や男女の違いといった異なる価値観を持つ人を理解していくことが全て、関心を持つきっかけが必要です。その時にいきなり世界をイメージするのは難しいですが、身近なところで、いつもなら楽な方を選ぶけれど、今回は新しい情報や出会いを選んでみようというオープンさを持つことが、すぐ身の回りまで来ているグローバル化に気付く、その時代を生きることにつながっていくのではないのでしょうか。

長友 私の講義では2000人規模でもディスカッションを行うのですが、学期の最初に「自分の意見を持っているのに母国語で言えない、これはグローバルな人材じゃないよね」と言つて、学生を刺激するようにしています。そのせいかは分かりませんが、私の講義ではほとんど手が挙がりません。これからは異文化サイバ能力というか、どこの社会に放り込まれても他者とコミュニケーションを取り関係性を築くことができる力が求められます。そのためには大岡先生がおっしゃったマインドの部分がとても重要で、世界市民を育成する関学としてはそういう教育を目指していかなければならぬと思っています。



白川英二・理工学部教授が JST戦略的創造研究推進事業に新規採択

理工学部環境・応用化学科の白川英二教授を代表者とする研究グループが提案した研究課題が、国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）の戦略的創造研究推進事業（CREST:研究領域「新たな生産プロセス構築の電子やイオン等能動的制御による革新的反応技術の創出」）に採択されました。



本事業は、日本が直面する重要な課題の達成に向けた基礎研究を推進し、科学技術イノベーションを生み出す革新的技術シーズを創出するためのチーム型研究を行うとしています。（一部JST公式ホームページから引用）

定める戦略目標の達成に向けて、基礎研究を推進し、科学技術イノベーションを生み出す革新的技術シーズを創出するためのチーム型研究を行っています。（一部JST公式ホームページから引用）

CRESTにおいては、国が

理工学研究科の中後大輔准教授と 横田将宏さん、川添翔平さんが 起立支援のロボットで最優秀論文賞受賞

理工学研究科人間システム工学専攻の横田将宏さん（M1年生）、川添翔平さん（M2年生）、中後大輔准教授らが、9月10日から12日までパナマで開かれた脚歩行移動ロボットおよび人間支援システムに関する国際会議「The 21st Int. Conf. on Climbing and Walking Robots and Support Technologies (CLAWAR 2018)」で、最優秀論文賞に当たるCLAWAR Association Best Technical Paper Award - First Prizeを受賞しました。

受賞論文は、“Standing assistance that considers user posture tolerance,” Proc. of 21st International Conference on Climbing and Walking Robots and Support Technologies (CLAWAR 2018), no.29, (2018.09)。東洋大学理工学部機械工学科の横田将宏教授、産業技術大学院大学創造技術専攻の橋本洋志教授と共に取り組んだ研究成果をまとめています。

足首や膝、股関節など筋力が発揮可能な関節可動域と体のバランスから動作許容範囲を定義して、その範囲内で高齢者の自発的な動作意志を尊重する支援動作アルゴリズムを提案。高齢者が

支援ロボットに頼りきりになると、筋肉の低下につながることもあり、可能な範囲で自らも動くことを想定した支援を加える仕組みにしたのが特徴といい、約100件の発表の中から最優秀に選ばれました。



巳波弘佳・理工学部教授と 理工学研究科の深江政太さんが 国際会議でBest Paper Awardを受賞

INCoS2018(10th International Conference on Intelligent Networking and Collaborative Systems)が9月5日から7日まで、スロバキアで開催され、巳波弘佳・理工学部教授と深江政太さん（理工学研究科M1年生）らがBest Paper Awardを受賞しました。

受賞論文は“Model for Generation of Social Network Considering Human Mobility” Naoto Fukae, Akihiro Fujihara, Hiroyoshi Miwa。この研究は、人の移動の数理モデルに関するものです。人はランダムに移動するわけではなく、ある種の移動特性を持っており、確率2分の1で交友関係を築くわけではありません。また、交友関係ネットワークの構造は、スケールフリー性というある種の数学的性質を持っていることが知られています。しかし、これらの関係性については今まで明らかではありませんでした。

巳波教授らは、人が移動しながら他の人と出会い、交友関係をつくっていく過程を考慮することにより、交友関係ネットワークのスケールフリー性を再現できるモデルを発見しました。このモデルは現実のネットワークの性質と整合性を持つため、人の移動が関係するさまざまなシミュレーションをよりリアルな状況を考慮したものなど工学的応用のみならず、社会学など多様な分野で有用です。



熊本地震被災地での ボランティア活動が計10回に



ヒューマン・サービス支援室が中心となって2016年7月から続けている熊本地震被災地（熊本県益城町）での現地ボランティア活動が、9月で10回目となりました。

6月に続く訪問で、9月6日から10日まで実施。学生18人と教職員4人が参加しました。最初は、ガイドの方に説明していただきながら、最も被害の大き

かった益城町内を回り、後半は班ごとに自由に歩きました。被害によって壊れた家や建造物など目に見えるものだけではなく、住民同士の交流の減少など目には見えない影響についても考える機会となりました。仮設団地では、住民の方々とかるた、万華鏡作りなどの昔遊びや、茶話会、バンケーキ作りなどで交流を深めました。



奈良県御所市と 連携協力に関する協定を締結



関西学院大学は10月12日、西宮上ヶ原キャンパスで、奈良県御所市と連携協力に関する協定を締結しました。多様な分野において相互に協力し、地域社会の持続的な発展と人材育成に寄与することを目的としています。

今後、関西学院大学は全学部の学生が履修可能となる正課授業を提供し、授業履修者には御所市の中心部にある空き家や銭湯のリノベーション計画の議論、策定に

参画してもらう予定です。リノベーション後には、それらの場所を活用して、さまざまな世代、人々をつなぐコミュニケーションの場の提供・運営に関わり、御所市の人々と共にまちづくりを支えています。

また、世帯調査や学術的な分析を行いながら、地域社会の持続的な発展に帰するための研究活動も行うことで、御所市の現状に合わせた持続可能な発展戦略を考えていきます。

陸上競技部の多田修平選手が 西宮市長を表敬訪問

陸上競技部の多田修平選手（法学部4年）は11月26日、竹原純一監督、林直也短距離コーチと共に西宮市役所を表敬訪問。8月にインドネシア・ジャカルタで開かれたアジア競技大会に日本代表メンバーとして陸上男子



400mリレーに出場し、優勝したことを報告しました。

多田選手は石井登志郎・西宮市長に成績を紹介した後、「今シーズンは悔しい結果が多くなりましたが、この悔しさをバネに、2020年の東京五輪では個人種目とリレーでメダルを獲得したい」と抱負を述べました。これに対し、石井市長は「多田選手は西宮市の

スポーツを盛り上げてくれていて、代表的な選手。頑張りが地域の子どもたちや大人に勇気を与えています。東京五輪にはぜひ応援に行きたいと思えます」と激励。記念品を受け取った多田選手は「西宮は自分が強くなった場所。応援して下さった方たちに恩返しができるよう頑張りたい」と決意を語りました。

商学部・石淵ゼミが大丸梅田店とコラボ ハロウィンをテーマに商品開発

マーケティングリサーチ、消費者行動論を専門とする商学部・石淵順也教授のゼミ生が産学協同企画として、本年度も大丸梅田店と連携し、スイーツ、惣菜、パンなどの商品を開発しました。テーマは「キモカワ」「ガチカワ」で、10月11日から31日まで販売しました。

ゼミ生は春学期から開発を開始。これまで大学で学んだ知識を活用し、マーケティングリサーチを行いました。調査結果を基に、商品原案、コンセプト、価格等を提案。8月の試食会では、提案に基づき作成された試食品を囲み、大丸梅田店の社員、各テナントの社長やパティシエと議論しながら、



改良点を探りました。試行錯誤を続け、「ユニーク」で「売れる」メニューの商品化にこぎつきました。

私大連フォーラムに 村田治学長がパネリストとして登壇

日本私立大学連盟主催の「私大連フォーラム2018未来を先導する私立大学の将来像」が10月17日、第一ホテル東京（東京都港区）で開かれ、私大連副会長も務める村田治学長が第2部のパネル・ディスカッションにパネリストとして参加、大学改革を通じた人材育成について意見を述べました。

フォーラムのテーマは「2040年を見据えた私立大学の大学改革と人材育成」。パネル・ディスカッションには、村田学長のほかに、北山禎介・中央教育審議会会長（三井住友銀行特別顧問）、経済財政諮問会議議員や人生100年時代構想会議議員を務める高橋進・日本総合研究所チェアマン・エメリタス（名誉理事長）、私大連会長の鎌田薫・早稲田大学総長が登壇。私大連常務理事の松岡敬・同志社大学長がコーディネーターを務め、大

学改革を通じての人材育成などについて、「産業構造の変化が及ぼす私立大学への影響」「グローバル化と地方創生の課題」「大学の機能分化と大学間連携」を論点に、企業側、大学側のそれぞれの視点から話し合いました。

村田学長は「産業構造の変化が及ぼす私立大学への影響」について聞かれ、「AIやIoTの発達にどう対応していくかは、大学にとって極めて重要な課題。AIの発達によって、日本では47%の仕事がなくなると言われていますが、新しい仕事も生まれてきますので、AIを活用できる人材の育成が今後必要になるでしょう。文理の枠を超えた横断的なプログラムの提供や、学生に人間力、価値観を身に付けさせること、二つの分野で専門性を高めさせることも必要だと考えます」などと話しました。



全日本合唱コンクールで 関西学院グリーンクラブが最高賞



「第71回全日本合唱コンクール全国大会」(全日本合唱連盟・朝日新聞社主催)の大学職場一般部門が11月24日、札幌コンサートホールKitaraであり、大学ユース合唱の部で関西学院グリーンクラ

ブが金賞と部門最高賞に当たる文部科学大臣賞を受賞しました。

金賞は9年連続、文部科学大臣賞は2年ぶり、次年度の全国大会のシード権を2年ぶりに獲得しました。

ラクロス部女子 2年ぶり3度目の大学日本一

「第10回ラクロス全日本大学選手権大会」の決勝が11月25日、駒沢オリンピック公園総合運動場陸上競技場(東京都)であり、ラクロス部女子が5-2で昨年優勝の慶應義塾大学を下し、2年ぶり3度目の日本一に輝きました。



写真提供：関学スポーツ

決勝戦のために徹底的に準備してきた関西学院大学は、開始から慶應義塾大学の攻撃を封じます。前半12分、

フリーシュートを決め均衡を破ると、15分にも得点を追加します。後半も流れを渡すことなくリードを守り、実力を見せつけました。

関学カプセル...40

再開されることになった。

属仁川幼稚園園舎などにも利用されたが、後に学院に管理と運営が委ねられ、長く文学部心理学科の研究室として用いられてきた。研究室は、1998年に新築されたF号館に一度は移転するも、2003年にハミル館の改修が完了し、総合心理学科の心理科学研究室として使用が



1923年に心理学研究室が2階に設置され、日本の私学で初めての心理学実験室が誕生した。上ヶ原に移築した1929年以降は、関西学院教会付

橋本秀樹・理工学部教授が 兵庫県科学賞を受賞



理工学部環境・応用化学科の橋本秀樹教授が10月15日、兵庫県科学賞を受賞しました。

この賞は県民文化の高揚、科学技術の向上、スポーツの発展および明るい地域社会づくりに顕著な貢献をした個人または団体に、文化賞、科学賞、スポーツ賞、社会賞を贈り表彰するものです。

橋本教授は「学生・院生として関西学院大学に在籍してい

た時から継続してきた光合成初期

反応の機能解明に関する研究と、理工学部環境・応用化学科を新設し開拓してきた人工光合成による次世代燃料開発に関する研究の成果が認められて、このような栄誉を授かることができました。さまざまなお支えに感謝します」と喜びを語りました。

卒業生の近本光司さん 阪神タイガースから1位指名

2018年プロ野球ドラフト会議が10月25日、東京都内で開かれ、近本光司さん(2017年法学部卒)が阪神タイガースから1位指名を受けました。

関西学院大学時代は5シーズンに出場し、通算で43安打を放ち打率.352を記録。3年生春には、打率.379、リーグ最多10盗塁でベストナインに選ばれました。

卒業後は、社会人野球の強豪、大阪ガスに進み、1年目からレギュラーを獲得。昨年7月に東京ドームで開かれた「第89回都市対抗野球大会」では、21打数11安打、打率.524と活躍。首位打者と最優秀賞に当たる橋戸賞を



◀前号の近本さんの紹介記事はこちら

受賞し、チームの初優勝に大きく貢献しました。

ハミル館

建築から1世紀
関学最古の校舎

西宮上ヶ原キャンパスの外国人住宅斜面下にあるハミル館は、関西学院に現存する校舎で最古の建築物。原田の森キャンパス(現在の神戸市灘区王子公園)時代の1918年に建てられ、上ヶ原に移築された唯一の建物で、昨年で建築から100年を迎えた。

もともとはH・Mハミルの特別献金により日曜学校教師養成所として建築、開設された。W・M・ウーリズ設計の木造2階建てで、十字形平面の四隅に八角形の建物をはめ込んだ独特のデザインをしており、献金者にちなんで「ハミル館」と命名。

西宮上ヶ原キャンパスなど クリスマスツリー点灯式を開催



クリスマスツリー点灯式が12月3日、西宮上ヶ原、西宮聖和、神戸三田のそれぞれのキャンパスで開催されました。

西宮上ヶ原キャンパスでは初等部の児童、中学部・高等部の生徒、学生、近隣の方々、教職員が中央芝生に集いました。吹奏楽部の演奏で讃美歌を歌い、田淵結院長が「来年、関西学院が創立されて130年、上ヶ原に移転して90年となります。この間に関西学院は発展し、今、西宮上ヶ原、西宮聖和、神戸

三田の3キャンパスで同時にクリスマスツリーを点灯することができます。今年のクリスマスを通じて、皆さんの心がより明るく、豊かになることを祈っています」などとメッセージを送りました。

その後、田淵院長、中道基夫・神学部長、大学・高等部・中学部・初等部の代表が、会衆の「3、2、1」の掛け声とともに点灯ボタンを押し、時計台の左右にあるヒマラヤスキの電球が一斉に光を放ちました。点灯の瞬間には歓声が沸き起こりました。

KG★グルメ

BIG MAMA、BIG PAPA (西宮上ヶ原キャンパス)
新食堂 Fresh Box (神戸三田キャンパス)

チリマヨ唐揚げ丼

ピロ辛のチリソースと酸味の効いたマヨネーズのコラボレーションが、アツアツの唐揚げのうま味をグッと引き出します。加えて卵もぜひ

たくに使用しているので、タンパク質摂取にはもってこい！グラムバイキングや小鉢メニューのサラダと一緒に食べるのがお勧めです。378円。



アメフト部がライスボウル出場 社会人王者に挑むも敗北

第72回ライスボウル(アメリカンフットボール日本選手権)が1月3日、東京ドームであり、17年ぶりの日本一を目指した関西学院大学アメリカンフットボール部ファイターズは、社会人王者の富士通フロンティアーズと対戦。最後まで粘り強い戦いを見せましたが、17-52で敗れました。

第1クォーター(Q)残り2分、関西学院大学はタッチダウンで先制を許すと、直後の攻撃では、パスを奪われるインターセプトから再びタッチダウンを決められるなど一気に14点をリードされます。第2Qでは、WR83小田快人選手(社会学部4年生)のタッチダウンやK8安藤亘祐選手(商学部3年生)の43ヤードのフィールドゴールなどで10点を返しますが、相手の攻撃を止めきれず、追加点を奪わ



れて24-10で前半を終えました。

後半に入っても苦しい戦いが続きます。第3Qには、タッチダウンを3度決められ21点を失います。反撃したい関西学院大学は、試合終了間際、主将のQB10光藤航哉選手(経済学部4年生)が走りこんでタッチダウンを決めるなど意地を見せませんが、強力な相手ディフェンスの前に一度渡した流れを取り戻すことはできず、試合終了となりました。強敵相手に粘り強く戦った選手たちに、スタンドからは大きな拍手が送られました。

サッカー部女子の石淵萌実選手 アルビレックス新潟レディースに新加入

サッカー部女子の石淵萌実選手(総合政策学部4年生)が、女子サッカーのトップリーグ「プレナスなでしこ1部リーグ」に所属するアルビレックス新潟レディースに、来季から加入することが12月4日に発表されました。サッカー部女子から1部リーグチームへの加入は初めてのことです。

石淵さんは2018年度の女子チームの主将として2部リーグでは得点王に輝き、チームを3季ぶりの1部昇格に導きました。目標だったというなでしこリーグへの加入が決まり、「うれしい。小学1年生から始めたサッカーをずっと支えてくれた両親は本当に大きな存在



だったのが、感謝の気持ちでいっぱいです」と喜びを語りました。

また、今後については「自分の強みはダイナミックな抜け出しからゴールを奪うプレー。しっかりとアピールして、最大の目標であるなでしこジャパンのユニフォームを着て世界を舞台にプレーしたい」と活躍を誓いました。



UNHCRのダーク・ヘベカー駐日代表 国際機関に就職希望の学生を激励



国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR) のダーク・ヘベカー駐日代表が12月4日、関西学院大学を訪れました。平松一夫学長時に、難民を正規学生として受け入れる難民高等教育プログラムを全国に先駆けて導入した後、人権教育研究室室長と大学宗教主事の任にあった時から難民学生と交流の深かった舟木譲・宗教総主事と、今後の難民高等教育プログラムなどについて意見交換をしたほか、神余隆博・国連・外交統括センター長、村田俊一・国連・外交関連プログラム室長と懇談。さらに国連・外交コースで

学ぶ大学院生3人とも懇談し、キャリア構築について自らの体験を交えて説明しました。

ヘベカー駐日代表は、学生と意見を交わしながら、国連の運営が加盟各国の財政支援で成り立っていることを強調。さらに、「JPOに応募するまでにUNVやJICA等で関連する経験を積むとよい。学生時代にできることとして、NGO等で難民支援のボランティアやUNHCR等でのインターンもよいだろう」と話しました。国連にはさまざまな仕事があるので専門性を大切にした上で、国連で働きたいという強い思いが大切、と激励しました。

社会学部・大岡ゼミ生のビジネスアイデアが 西宮市の学生コンテストで最優秀賞

社会学部の大岡栄美准教授のゼミ生4人のグループが、西宮市の地域産業や企業の活性化、また地域の発展や魅力の創造、再発見につながるようなビジネスアイデアを競い合う「にしのみや学生ビジネスアイデアコンテスト2018」で最優秀賞を受賞しました。



提案したのは、共働きや子育てなどの理由から買い物に行くのが困難な“買い物苦労人”をターゲットに、西宮市卸売市場(おろいち)の野菜の詰め合わせを届けるサービス「買い物苦労人に届け!おろいちとれとれカスタムBOX!」。詰め合わせ野菜は、おろいちの業者が目利きした新鮮な4品と消費者が自分で選ぶことができる4品の合計8品で、中

身を全て使い切ることができるレシピや野菜の適切な保存方法を記した説明書が同封されていることなどが特徴です。地域に住む子育て世代の主婦へのヒアリングや、市内の企業経営者からのアドバイスを通してアイデアの改良や既存サービスとの差別化に取り組みました。

グループ代表の岡本紘明さん(3年生)は「最優秀賞をもらえてうれしい。メンバーや先生、企業の方々など周りの協力のおかげです」と喜びを語りました。

QS APPLE 2018で宮田由紀夫副学長が 国際バカロレアへの取り組みを報告

韓国・ソウルの中央大学 (Chung-Ang University) で11月21日から3日間、英国の大学評価機関「クアックアレリ・シモンズ社 (Quacquarelli Symonds: QS)」によるアジア太平洋地区の会合「QS Asia Pacific Professional Leaders in Education (QS APPLE 2018)」が開かれ、宮田由紀夫副学長が出席しました。世界大学ランキングの有用性や学生・教員の国際化、大学の国際的なブランド力向上などについて話し合われ、宮田副学長は本学の取り組みを報告しました。



宮田副学長は、日本の教育と雇用の特殊性にふれながら、高等教育や雇用の将来あるべき姿について説明。文部科学省が日本国内で国際バカロレア (IB) の普及を目指し、認定校増加の計画を進める中、関西学院大学が関西地区で初めてIB教員養成プログラムを開講することの意義について語り、Top Global Universityの一つとして、グローバル人材に必要な力を育む教育を実施していくことを強調しました。

中国の大学関係者約120人と 西宮上ヶ原キャンパスで交流深める

兵庫県淡路島で行われた日中教育交流会に参加した中国の大学関係者約120人が11月27日、西宮上ヶ原キャンパスを訪れ、村田治学長、日浦直美副学長 (国際連携機構長)らと懇談するなど交流を深めました。



来訪したのは、協定大学である中国人民大学、四川大学をはじめ、北京、上海、深圳など中国各地の大学関係者の一行。中央講堂で関西学院大学を紹介する会合があり、村田学長が歓迎の言葉を述べた後、代表して上海外国語

大学の張峰副学長があいさつしました。続いて、海外の協定大学等に提供するプログラムなどを説明。学生交流や学術交流を発展させるために今後、協定の締結について話を進めたいという大学関係者もあり、実りの多い交流となりました。

学院通信

第97回全国高校サッカー選手権大会兵庫県予選の決勝が11月11日、ノエビスタジアム神戸(神戸市兵庫区)で開かれ、関西学院高等部は県立西宮高校に2-1で勝利し、50年ぶり10回目の全国大会出場を決めました。

高等部は前半15分、MF林幹太さん(3年生)の左クロスでMF唐山明大さん(3年生)がゴール前で合わせて先制。続く21分にも、再び林さんのクロスから唐山さんが押し込んで2点目を奪って前半を終えました。後半は、県立西宮の素早い攻撃に苦戦し1点を返されましたが、DF三輪愛大さん(2年生)を中心とした強固なディフェンスで序盤のリードを守り切り、50年ぶりの切符を手に入れました。

選手権大会では12月31日に、柏の葉公園総合競技場(千葉県)で石川県の星稜高校と対戦。2014年度には優勝している強豪に挑み、0-2で敗れました。選手たちは、相手ゴール前へ攻め込むなど見せ場を作るものの、相手ディフェンスに阻まれシュートをほとんど打つことができず、攻撃のリズムをつかめないまま、試合終了となりました。

大舞台での勝利とはなりませんでしたが、応援に駆け付けた卒業生や関係者からは、選手たちの勇姿に大きな拍手と歓声が送られました。

↓県予選表彰式の様子



↑県予選で優勝した高等部サッカー部

強豪との戦いに拍手と歓声
サッカー部が50年ぶりに全国大会

ヒマラヤ山脈の2峰に登頂成功
ワンダーフォーゲル部の3人

↓11月1日、標高6,189mのアイランドピーク山頂にて

ワンダーフォーゲル部の安藤誠さん(総合政策学部4年生)、田村一正さん(理工学部4年生)、鹿田慧さん(文学部3年生)の3人が昨年11月、ヒマラヤ山脈にある6,000m級の2峰に登頂に成功しました。ワンダーフォーゲル部の海外遠征は23年ぶりのことです。

3人は10月12日にネパール入りした後、徐々に高地に体を順応させながら2週間かけて標高5,400mのベースキャンプへ移動。27日午前1時、メラピーク(6,476m)に向けて出発し、約9時間かけて登頂に成功しました。その後、スキーで滑降り、すぐに次のベースキャンプへ移動。5日後の11月1日には約20km離れたイムジャツェ(通称アイランドピーク、6,189m)への登頂にも成功しました。「本当に長い道のりだったので、頂上からの景色を見た時は特別な達成感がありました」と3人は話します。

「入部したころから、大きなことをやりたいと思っていた」と言うリーダーの安藤さんは、意気投合した同学年の田村さんと3年の春ごろから海外遠征について考え始め、後輩の鹿田さんを誘って登山隊を結成しました。田村さんは「これまでの登山よりも準備期間が長く大変だった」と振り返ります。挑戦する山を慎重に選定するために、海外経験がある登山家に話を聞き、約4か月を費やして、それぞれの山頂



↑標高5,800mのアイスフォールを進む登山隊

までのルートや現地の様子などに関する情報を収集。安全面に関しては、クレバス(氷河や雪渓の割れ目)を渡る訓練や、落下してしまった仲間を救助する訓練も重ねました。

遠征費用の工面も課題の一つでしたが、連絡先が分かる約400人のOBに手紙と登山計画書を送ると、1か月で200万円を超える寄付が集まりました。安藤さんは「予想以上の寄付があり、本当にありがたかった。多くの人に支えていただきました」と感謝しています。

唯一の3年生として参加した鹿田さんは、「たくさんの人に支えられ成功させることができました。人のつながりの大切さや海外遠征の魅力、必要なノウハウや技術などを後輩たちに伝えていきたい」と話しました。

読者アンケート&プレゼント

関学ジャーナルのアンケートにご協力ください。ご協力いただいた方の中から抽選で3名様に「陸上競技部・多田修平選手(法学部4年生)のサイン入り写真(いずれか1枚)」をプレゼントします。右記QRコードからアンケートにお答えください。締め切りは2019年3月20日Ⓢ。当選は発送をもってかえさせていただきます。

※お寄せいただいた個人情報、プレゼントの発送以外では利用いたしません。

関学ジャーナルへのご意見・ご感想はWEBでも受け付けています。▶関学ジャーナルご意見・ご感想フォーム URL→<http://www.kwansei.ac.jp/form/kgjm.html>



パソコンURL ↓

<https://www.kwansei.ac.jp/kg/j/>

スマートフォン



高齢者介護のいま



私に
一言
わせて!



理工学部准教授
(サービス工学、ロボット技術を用いた人間支援技術)

中後 大輔

私が介護ロボットの研究に取り組み始めたのは、大学院を修了して間もなくの頃でした。恩師が勧めてくれたこともありましたが、私の祖母が要介護状態になって、家庭が激変したことも大きな動機でした。知識としてはわかっていましたが、家族で介護することの壮絶さを身をもって体験したことで、家庭用の介護ロボットを何とか実用化したいと心に誓ったものです。

介護ロボット研究の難しさは、補助する対象になる相手が人間であることです。私は主に立ち上がることの補助をするロボットを研究していますが、立ち上がるという行為は、足の裏に体の重心をかけるために上半身を前に傾けること、勢いをつけて体を持ち上げる、というような複数の一連の動作をスムーズに行う必要があります。ふだん私たちは意識していませんが、体のいくつもの筋肉が協調してこれらの動作をなす、その複雑さ、この体のメカニズムを理解しなければ、介護ロボットの設計もままなりません。

さらに、使用するのは、当然ですが体が弱って困っている人です。体の弱り方も千差万別で補助の仕方も多岐にわたります。私はロボット工学の専門家ではありますが、介護技術の専門家ではありません。そこで研究を進めるためには、専門家のお話をよく伺うことが重要です。異分野の先生方の経験則をいかに工学として理解するか、がポイントとなります。言い換えると、先生方がおっしゃる「こんな風にした方がよい」という言葉を、数字で表現しなければいけません。最近はコンピュータ技術の進歩が著しいですが、こと介護ロボットを考えた場合、このポイントを自動化する技術はまだなく、私たち研究者がまだまだ頑張る必要があるでしょう。

祖母の一件以来、10年研究してきた起立支援ロボットですが、実用化に向けて最終段階にあります。すでに一部の介護施設では試験的に導入されていたりしますが、その中で一つ気になることがあります。開発している起立支援ロボットに求められている販売価格が、最新のiPhoneより安いのです。安全性、体を支える、という求められる機能を考えると、私にはとても違和感があります。介護にかかるコストを社会でいかに分かち合うかという問題なのですが、この部分は研究者の頑張りだけではなく、社会で議論して乗り越えてほしいところです。祖母には使ってもらえませんが、多くの人に介護ロボットを使ってもらえる未来を夢見ています。



人間福祉学部准教授
(高齢者福祉、ジェンダー、介護人材育成)

澤田 有希子

介護労働市場における人手不足の深刻化を背景に、外国人労働者の受け入れが加速しています。2018年現在、高齢化率は28%を超え、全国の介護職員数は現在およそ190万人。これまでも介護職員の離転職率の高さが問題とされ、どの施設でも人材確保・育成には頭を悩ませてきました。

厚生労働省は、2025年には介護職員数が約245万人必要で約38万人不足すると推計しています。政府は「日本再興戦略」として、相当数の外国人介護士の受け入れを想定した入管法や技能実習法を昨年改正しました。これにより、介護領域における外国人の就労機会が急速に拡大することになりました。

外国人の受け入れの是非はここ数十年、介護領域で議論が続いています。すでに2000年頃から日系人や日本人配偶者が就労する動きが始め、2008年以降には経済連携協定を締結したインドネシア、フィリピン、ベトナムからEPA介護福祉士候補者を受け入れてきたからです(2018年現在4,310人)。ただしEPAでは、在留資格を得るには「来日後4年以内に日本の国家試験に合格する」という厳しい条件が課されていたので、受け入れ条件、規模ともに、今回の法改正はこれまでの方針を大きく転換するものとなりました。

では、この状況を介護現場はどのように受けとめているのでしょうか。外国人介護士は総じて利用者への関わり方が丁寧で、真面目で熱心な仕事ぶりは職場の同僚や利用者、利用者家族からも高い評価を得ています。一方で、利用者との高いコミュニケーション能力とチームケアが求められる介護業務において、日本語の会話や読み書きの能力が不十分で意思疎通が困難であることや記録が書けないことは課題とされ、言葉・文化・価値観や生活習慣などの違いを不安視する声もあります。

また、日本人と外国人に不当な待遇格差をつけることや労働搾取などの不正を働く介護事業者が現れる可能性にも注意が必要です。外国人介護士を低賃金で雇用できる使い捨て人材と安易に考える事業者の存在は、日本の介護の質や社会的評価を下げ、利用者の生活の質(QOL)の低下を招く恐れがあります。

外国人介護士の人材受け入れが進む中で、職場組織や教育現場はこうした課題に向き合うことが求められています。そして、今後、自治体や地域社会においては、「労働者」ではなく、共に生きる「生活者」として、急増する外国人住民をどのように受け入れていくのか、私たちがその覚悟と姿勢を問われる課題でもあるのです。

社会で話題になっているテーマに対して、教職員の考えを聞きました。



多様な人種が当たり前 外国人が居心地の良い街



↑フランクフルト市街地

クグラウンド
相談者のパツ
す。おかげで
共生していま
が当たり前
な人種・階層
があり、多様
主要ハブ空港
街にして欧州
金融の中心
ルトは、欧州
関と協力した
り、戦ったり。
フランクフ

が多岐にわたり、「事実上は小説よ
り奇なり」を地で行く事例は枚
挙にいとまがありません。
同時に外国人、国際児の母と
して居心地の良い、働きやすい
街です。職場・子育て環境は、日
本より圧倒的に整っていると感じ
ます。皆さんが、海外で実習
や研修あるいは就職される機会
を得て、自らのライフ・ワーク・
バランスを見つめ直せば、日本の
「働き方改革」が進むきっかけ
にならないでしょうか。学問に
自由裁量が利く大学時代に、専
門だけでなく、語学にもトライ
しておく、「芸は身を助く」で
将来の可能性が広がるかもしれ
ませんよ。

「Mastery for Service」をモツ
トーとする大学を経て、私がた
どり着いた専門域は、ソーシャル
ワーカーです。学部を卒業してす
ぐにドイツへ留学し教育学(社会
教育学)を専攻、日本の博士前
期課程に相当するディプロムと
いう学位を得ました。以来、主に
医療ソーシャルワーカー(SW)と
して病院に勤務しています。仕
事で日本語を使う機会は、たま
に引き受ける院内通訳ぐらいで、
関学の言語教育センター(当時)
を活用して得た(半ば趣味だっ
た)ドイツ語力を毎日フ
ル稼働して暮らしていま
す。
同じ職種は日本にも
存在しますが、社会制度
が異なるため、職務には
さまざまな違いがありま
す。それでも、対人相談
援助の基本姿勢は世界
共通なので、日本のSW
と交流すると、あるある
談話に花が咲きます。医
療機関に身を置きつつも、
福祉の視点を主軸とし、クライ
アントのため



↑一昨年寒波で凍ったメイン川

協定校紹介

マインツ大学 Johannes Gutenberg University Mainz

ドイツの空の玄関であるフランクフルト国際空港から電車で約20分のプファルツ州の州都マインツ市にあるマインツ大学は、活版印刷技術の発明者ヨハネス・グーテンベルクの名前を冠する1477年創設のドイツを代表する大学です。10学部に120カ国からの留学生を含む3万6,500人の学生が学ぶドイツ最大の大学の一つでもあり、THE世界大学ランキング2019では300位以内にランクインしています。現地企業と連携し研究を推進していることも一つの特色として評価されています。

関西学院大学とは、1998年にドイツ語海外研修プログラムを開始してから交流が始まりました。学生交換を開始した2014年以降は、両大学間で活発な学生交換が行われています。

授業は主にドイツ語で開講されていますが、英語で行われるものもあります。なお、マインツ大学以外に、ドイツの中・南部にはエアランゲン・ニュルンベルク大学、アウグスブルク大学、レーゲンスブルク大学等の四つの学生交換協定校があります。





大学図書館ホームページでは、WEBデータベースや図書館活用術など、幅広い情報を分かりやすく紹介しています。教職員の新刊情報も随時更新。「関西学院大学図書館」で検索！

大学図書館の旬な情報をお届け

Libraring

大学図書館のWEBデータベースを就職活動でも活用しよう！

大学図書館ではホームページから「調べる・探す」ツールとして、WEBデータベースを提供しています。

「日経テレコン21」には、日本経済新聞をはじめ、企業の概要、財務内容などの企業情報が数多く収録されています。また「東洋経済デジタルコンテンツ・ライブラリー」では、「会社四季報」「就職四季報」（総合版、女子版）など経済・ビジネス・企業情報誌を検索・閲覧することができます。

これらのWEBデータベースは、学内ネットワークにつながったパソコンから使えます。関西学院大学情報環境機構のホームページからリモートPCにログインすれば、自宅からも使用可能です。



大学図書館のWEBデータベースを、普段の学修の際はもちろんのこと、就職活動の企業研究にも、ぜひ活用してください。

教職員の新刊

神がいるなら、なぜ悪があるのか

加納和寛 神学部准教授 著
関西学院大学出版会

反転と残余

奥村隆 社会学部教授 著
弘文堂

本当にわかりやすい すごく大切なことが書いてある ごく初歩の統計の本 補足I~II

吉田寿夫 社会学部教授 著
北大路書房

英語リスニング指導ハンドブック

門田修平 法学部教授 共編著
大修館書店

Rによる統計学独習

地道正行 商学部教授 著
養華房

開発途上国で学ぶ子どもたち

關谷武司 国際学部教授 編
関西学院大学出版会

国連の金融制裁

吉村祥子 国際学部教授 編著
東信堂

デジタル信号処理の基礎

岡留剛理 工学部教授 著
共立出版

ヨハネ福音書入門

前川裕理 工学部准教授・宗教主事 著
教文館

関学の四季

永田秀樹 司法研究科教授 写真・文
関西学院大学出版会

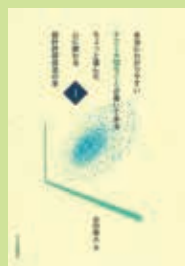
売上がぐいぐい伸びる お客様の動かし方

理央周 (児玉洋典 経営戦略研究科准教授) 著
実務教育出版

関西の地域振興と国際化

高林喜久生 経済学部教授 共編著
関西学院大学出版会

本当にわかりやすい すごく大切なことが書いてある ちょっと進んだ 心に関わる 統計的研究法の本 I~II



統計に対するネガティブなイメージの変容の促し、各分析法の意味(意義と論理)についての確実な理解、自他の研究に対してクリティカル・シンキングを働かせる態度や能力の育成、統計に対する絶対視・過大評価の抑制、日常生活に役立つ知識の形成、などといったことを重視して書いたものです。大学の講義などで補足説明をしてもらわなければ理解できないものではなく、一人で読んでも十分理解できる本になるように心掛けました。

吉田寿夫・社会学部教授 著 北大路書房



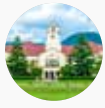
自治体財政の知恵袋

地方財政制度はとても複雑なものです。国民に対して、全国の多様な自治体が、必要なサービスを提供するためのものだから仕方がないところがあります。それだけに分かりにくい。誤解されることも多く、いろいろと疑問も湧きます。本書では、典型的な質問を念頭に、時に制度の中身に立ち入って解説しています。制度を最初から体系立てて説明するのではなく、トピックスごとに解説しているのが特徴です。これまでほとんど文字になってこなかったものも含まれています。



小西砂千夫・人間福祉学部教授 著 214ページ ぎょうせい





kwanseigakuinuniversity



「いいね！」1889件
kwanseigakuinuniversity.

関西学院大学の公式インスタグラムです ❤️
学生たちの普段の様子や美しいキャンパス風景を発信 🍀
気軽にフォローしてください 😊❤️

- #関西学院大学
- #関学
- #KGスナップショット
- #KGキャンパス
- #kwanseigakuinuniversity

Follow us!

